

平成25年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

桃太郎チャレンジキャンプ低学年

平成25年10月19日(土)～20日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

小学校低学年の子供たちが、吉備の自然の中で宿泊体験や自然体験活動にチャレンジすることで、友達の大切さや基本的な生活習慣を身に付け、自立への基盤を養う。

2. 事業の概要

(1) 開催日

平成25年10月19日(土)～20日(日)

(2) 募集人員

参加対象 小学校1・2年生

参加者 24名

(3) 講師

ツリーイング指導者 3名

(4) ボランティア

社会人 1名 大学生 12名

(5) 企画・運営のポイント

- ・岡山と言えば「桃太郎」。子供たちを「桃太郎」とし、このキャンプを通して各自の心の中にある弱い心を「鬼」に見立てて、その心を克服していく過程で友達と協力し合い、自立につながるような仕掛け作りを企画した。
- ・今回のキャンプは、ボランティアの参画事業として位置付け、プログラムの内容から当日までの動きの確認などをリスクマネジメントシートの作成を通して事前研修することで、キャンプの流れや自分たちのやるべきことを明確にできるようにした。
- ・ボランティアがこの体験を基に次回は自分たちだけで企画をし、事業を実施できるようにすることを想定した指導方法や内容を意識して取り組むようにした。
- ・班の目標を旗作りを通して設定することで、仲間と協力することの大切さや各個人の班に対する帰属意識に繋がるようにした。
- ・班担当ボランティアが閉会式後、保護者に2日間の子供の頑張りや成長を伝える場面を設定することで、児童の様子を責任をもってより観察しなければならない関わり方をもたせた。



「オニ」の提示

- ・ボランティアは子供に関わる中で、子供たちへの言葉がけによる支援を優先し、できるだけ手出しをすることなく、子供たちが自ら考えて活動できるように工夫した。
- ・このキャンプ中に培われた自尊感情や向上心を、家でも継続できるように「焼き板」へのメッセージや「おうちのひとへの約束シート」への書き入れといった言語活動を通して可視化させ、閉会式後、家族に自分の言葉で伝えられる場面を設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程等

10月19日(土)		10月20日(日)	
9:30	開会式	6:45	起床・清掃
10:00	チームももたろうをつくろう！ (仲間作りゲーム)	7:45	朝のつどい
12:00	昼食	8:00	朝食
13:00	だいぼうけんにでかけよう！ (オリエンテーリング, ランタン作り)	9:00	きのぼりにチャレンジしよう！ (ツリーイング)
17:20	夕べのつどい	12:00	昼食
17:35	夕食	13:00	おたからをもっかえろう！ (クラフト)
18:30	おにをさがしにいこう！ (ナイトハイク)	15:00	2日間の反省
20:00	入浴, 就寝準備	15:30	閉会式
21:00	就寝		

(2) 活動の状況



班の目標は何にする？



班旗をバックに！



力を合わせて！



手作りランタンがあれば暗闇も平気！



自分の力で登ったよ！



思い出を形にしよう！

4. 成果・課題

(1) 成果

①事業目的について

- ・事後アンケートの満足度は、すべての項目において100%であった。
- ・子供の発言に、「今まではお家の人を手伝ってくれていたけど、これからは自分でする」や「わがままな心やなまけ心を退治して、心がすっきりしました」という声があった。
- ・この事業を、10月の「体験の風をおこそう運動」推進月間に合わせて実施することで、「かわいい子には体験を！」の啓発資料も交えながら保護者に体験活動の重要性を訴えることができた。
- ・子供たちは「桃太郎」としての自覚と意欲をもち、各自の心にある弱い面を活動の場面に応じて克服することができていた。
- ・友達を自分から進んで知ろうとする姿や班の仲間と協力して活動しようとする様子から、チャレンジを通して成長する姿が伺えた。また、自分の身の回りのことを自分ですることを通して、基本的な生活習慣が意識付けられた。

②運営面について

- ・ボランティアと一緒にキャンプを企画することで、ボランティア自身のキャンプに対する思いも強くなり、職員との一体感が強まり、是非成功させたいという意欲が高まった。
- ・事前研修では、活動内容の細案や実地踏査などを綿密に行い、キャンプの流れや自分たちのやるべきことが明確化でき、先見的視点をもって運営に臨むことができた。
- ・継続ボランティアと新規ボランティアをペアにすることで、双方のスキルアップに繋がった。また、ボランティアのキャンプに対する考え方や子供に対する接し方等が変容し、ボランティア同士による悩み相談やアドバイスができるようになり、活動や子供への対応に活かされるようになった。

(2) 保護者聞き取りから

- ・苦手な物事を克服するよう、言葉巧みに指導してもらえて良かった。
- ・参加前と後では、少し雰囲気が変わっていました。大きく成長したと思っています。よくしゃべってくれます。大変楽しかったようです。
- ・最初は緊張していて心配でしたが、笑顔で楽しかったと言ってくれたので、この1泊2日は子供にとって成長が見られたのではと思いました。
- ・なかなか家では親が手を出してしまうことが多かったので、自分のことをする大切さに気付けたのではないかと思います。離れて生活することで成長したなと思います。
- ・最初は皆と仲良くやれるか、自分のことがちゃんとできるか心配でしたが、スライドショーの写真やリーダーからの言葉から、子供の成長した姿にびっくりしています。

- ・初めて一人で泊まりました。親の心配をよそに、子供は平然とした様子でとてもたくましく見えました。こういう機会を与えていただけたことにとても感謝しています。
- ・ボランティアが丁寧な対応で安心して預けることができました。ボランティアと一緒にとても楽しかったようです。職員、ボランティアの皆様に感謝しております。
- ・ボランティアは、一人ひとりにしっかり関わっていることが、最後のコメントで伝わってきて良かったです。一人ひとりの様子を教えてくれて本当に良かった。
- ・年に数回実施で、抽選ではなく、受け入れ口を広くしてほしい。

(3) 今後の課題など

- ・低・中・高学年と年3回に拡大し、ボランティア養成の場面とリンクさせて、資質向上と活動の場の確保に努めていきたい。当施設の看板事業として、本所の特色のある活動プログラムを組み込めれるようにしていきたい。

担当：企画指導専門職 村上 聖一